2024.1. 17 阪神淡路大震災追悼行事

1995年1月17日に午前5時46分、阪神淡路大震災が発生し、4571名の方がお亡くなりになりました。

私は、教員としてまだ新任の頃、修学旅行に出発する当日の朝に阪神淡路大震災を経験し、今日は、その中でも特に大切だと感じたことを3つお伝えします。

一つは決して「忘れないで語り継がなければならない」ということです。忘れて風化させてしまうと、いざ、また災害に襲われたときに、危機に対応できなかったり、守れるはずの命が奪われることにもなります。私たち生かされたものが果たすべき使命が「わすれない」で「語り継ぐ」ことです。2011年3月11日には、東北地方を地震と津波が襲い、死者、行方不明者の数は2万2215人に上った東日本大震災がありました。そして、今年、2024年1月1日に石川県を中心に能登半島地震が起こり、多くの方々の命を奪い、なかなかライフラインの復旧も進まず、多くの被災者の方々が不安な日々を送られています。過去の経験教訓を生かして、被害を抑え、大切な命を守り、1日も早い復興を果たすためには、「忘れない」「語り継ぐ」ことが大切であると思います。

二つ目は、自分の命を守ることを最優先させることです。助けてくれと泣きわめく人を無視して自分だけ助かれといっているのではなく、家族や友人の安否が心配であっても、その大切な人の無事を信じて、まず自分の命を守るための行動をするべきだということです。家族や友人のことが心配で、危険なところにとどまっていたのでは助かる命も助かりませんし、渋滞や混雑を引き起こしてしまい、多くの人と共倒れになる可能性があるということです。

三つ目は、普段から危機管理を怠らないことです。地震が来たら何をしなければならないのか、日常生活において、危機に対する意識を高く持ち続けることが必要です。

阪神淡路大震災から今日で28年になります。阪神淡路大震災や東日本大震災、そして、この度の能登半島地震で被災され、無念の死を遂げた方々のご冥福を祈念して黙祷を捧げたいと思います。